

令和元年度

町内「子どもの生活・意識アンケート」



1 実施主体 富士河口湖町教育センター

2 実施対象 富士河口湖町の小中学生

回答数

小学校3年生 214名 小学校5年生 222名

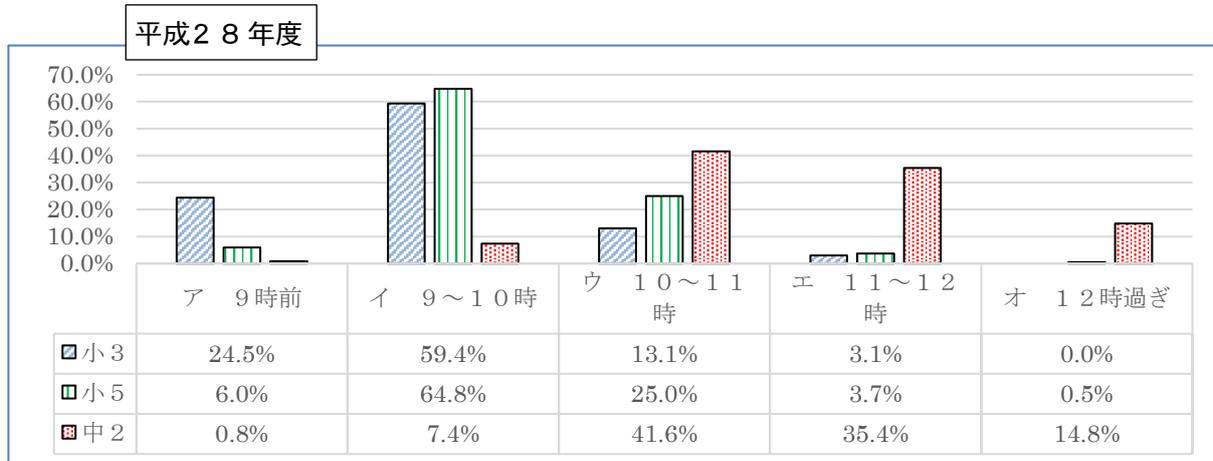
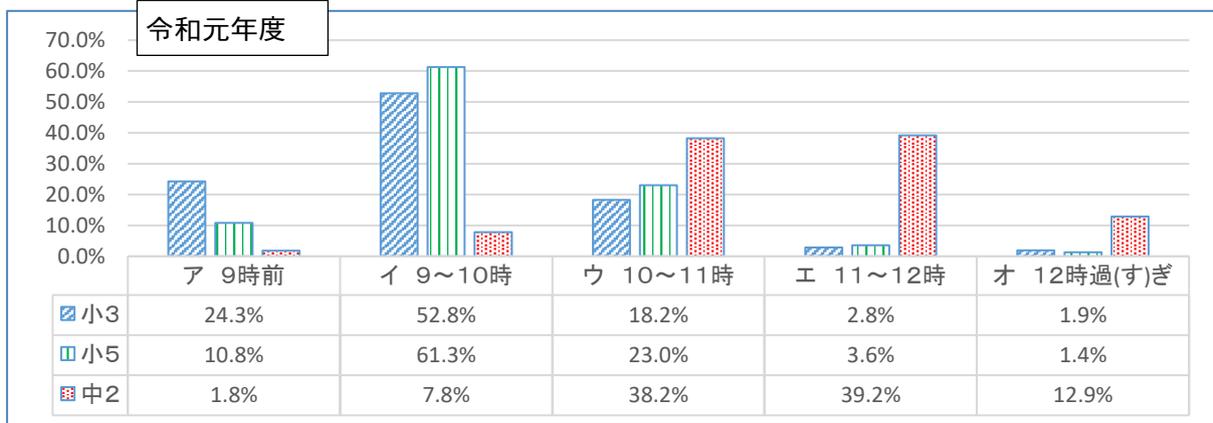
中学校2年生 217名

計653名

3 実施時期 令和元年6月～7月

参考 ・平成28年度は、教育センターで行ったもの（現中学2年生が5年生時）

問1 平日、夜ねるのは何時ごろですか。



<小学生>

- 小学生の就寝時間の最も多いのは9時から10時である。10時までには、小3で77.1%、小5で72.1%が就寝している。
- 小学生は11時までに約95%が就寝しているが、12時過ぎがH28年と比較して増加し、小3においてはH28年では0%であったが、今回は1.9%となっている。

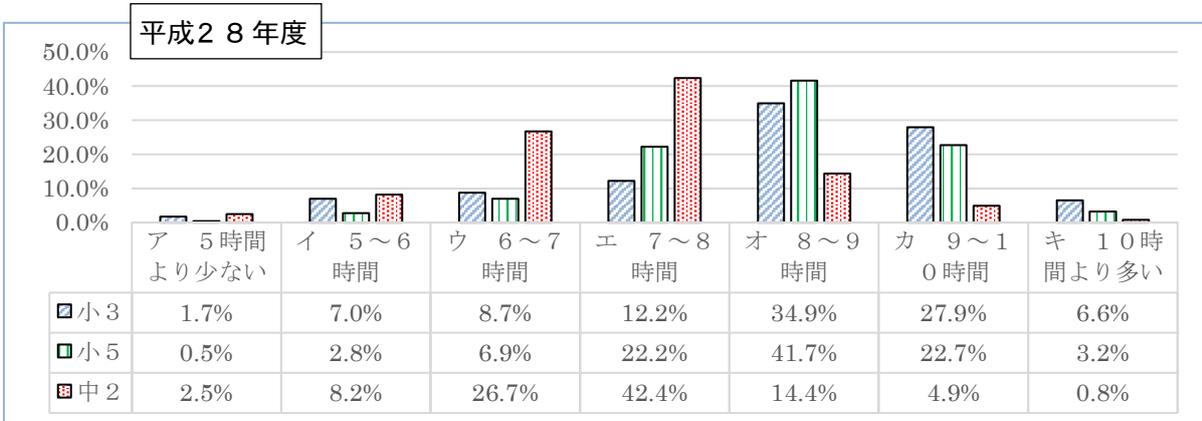
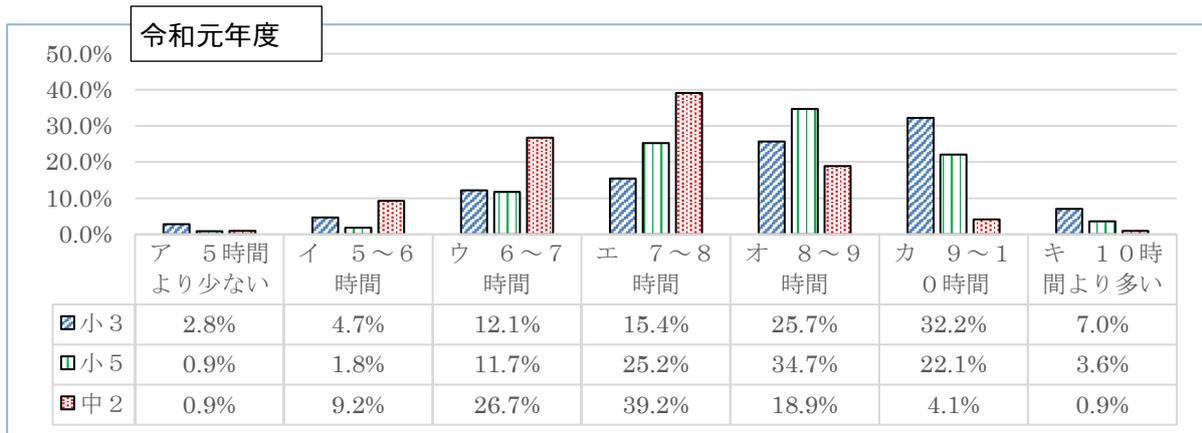
<中2>

- 中学生の就寝時間は、10時から12時が77.4%であり、H28年とは変化がないが、11時過ぎがやや増加している。
- 中学生の12.9%が12時を過ぎていますが、平成28年より若干減少している。
- 10時前に就寝する中学生がわずか(1.4%)だが増えている。

<全体>

- 中学生の方が、小学生に比べて就寝時間が遅い。
- 12時以降は何時頃就寝しているのか、また、どのような理由で起きているのかについて状況把握が必要である。

問2 平日、すいみん時間はどれくらいですか。



<小学生>

- 小3では、9～10時間が最も多く32.2%であり、次いで多いのは8～9時間で25.7%である。
- 小5では、8～9時間が最も多く34.7%であり、次いで多いのは7～8時間で25.2%である。
- H28年と比較すると、理想とされる睡眠時間9～11時間は、小5は25.7%でほとんど変わっていないが、小3でやや増加して39.2%で上向いている。しかし、8時間未満は小3では35%で約6%増加し、小5では39.6%で約7%増加するなど睡眠時間が減少傾向にある。

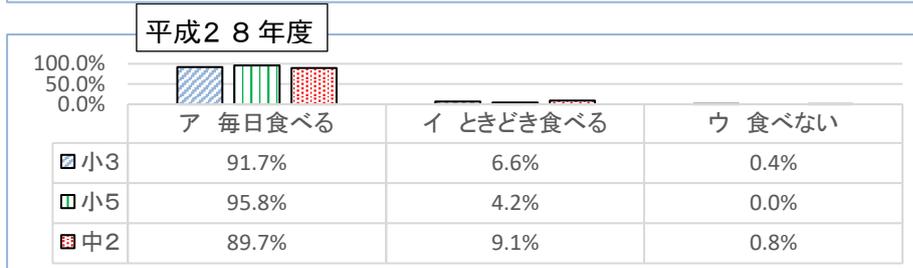
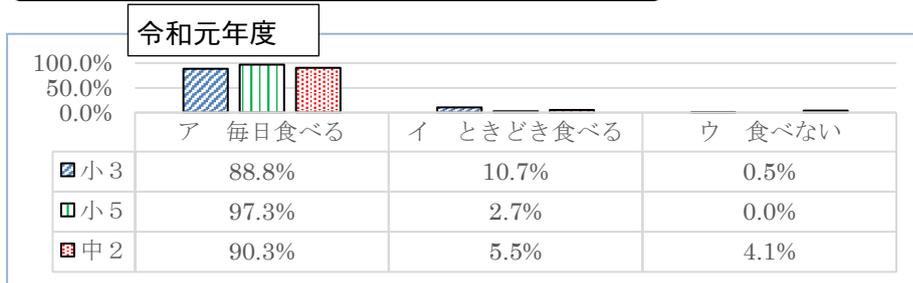
<中2>

- 睡眠時間の一番多い時間帯は7～8時間で39.2%であり、次いで多いのは6～7時間で26.7%である。
- H28年と比較すると、睡眠時間の8時間以上は約4%増加し、23.9%である。また、7時間未満はほとんど変わらないが、5時間未満は若干減少し0.9%である。

<全体>

- 学年が上がるにつれ睡眠時間は短くなる傾向にある。

問3 平日、朝食を食べて学校に行きますか。

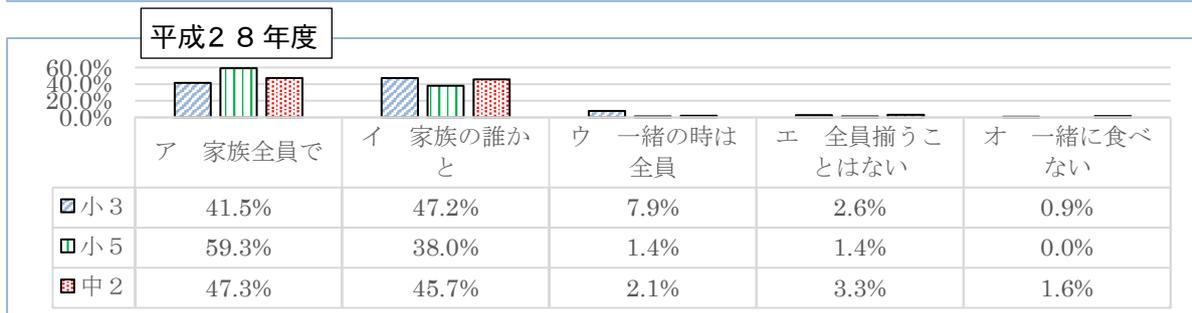
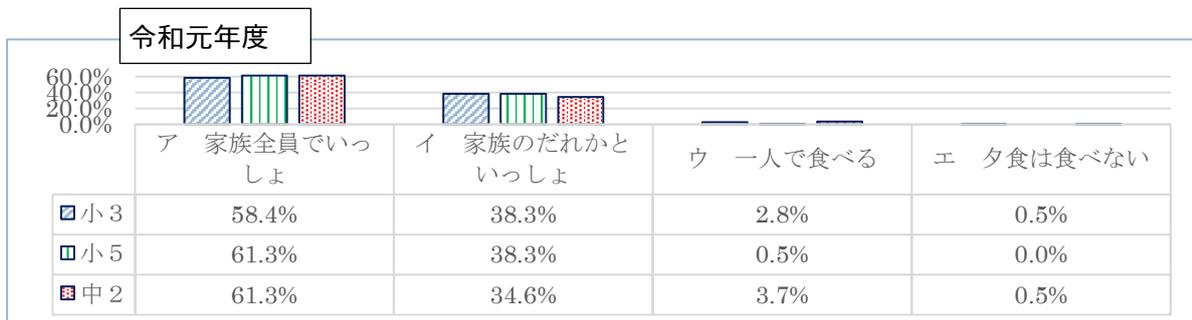


<全体>

○「全体的に朝食を食べて学校に行く」割合は高く、小5で97.3%である。しかし、小3は88.8%と中学生よりも低く、平成28年と比較しても約3%減少している。
○「朝食を毎日食べていない」割合は、小3では11.2%、中2では9.6%である。

○小3の「朝食を毎日食べる」が9割を下回り、「ときどき食べる」「食べない」が増加している。また、中2の「食べない」が増加し4.1%となっている。どのような状況なのか把握する必要がある。

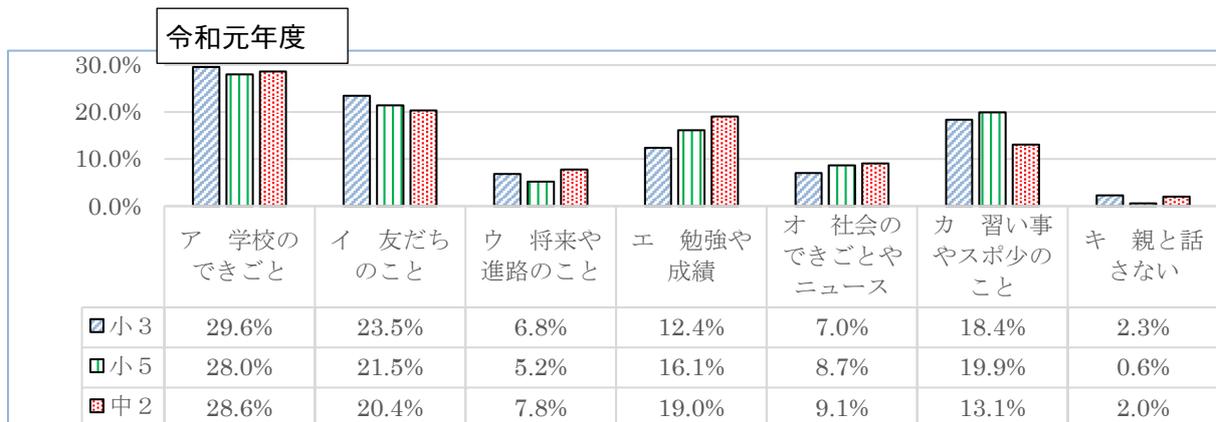
問4 平日、あなたは夕食を家族の人と食べていますか。



<全体>

○「いつも家族の誰かと一緒に食事をとっている」（アとイの合計）が、小3で96.7%、小5で99.6%、中2で95.9%となっている。H28年と比較すると、小3が約8%、小5で約2%、中2で約3%増加している。さらには、「家族全員でいっしょ」においては、小3で約17%、中2で約14%増加している。家族でいっしょに食事をする機会が増加していることがわかる。
○「一人で食べる」が若干いる（小3は2.8%、小5は0.5%、中2は3.7%）。また、「夕食を食べない」が、小3、中2で各0.5%である。それぞれどのような状況なのか把握する必要がある。

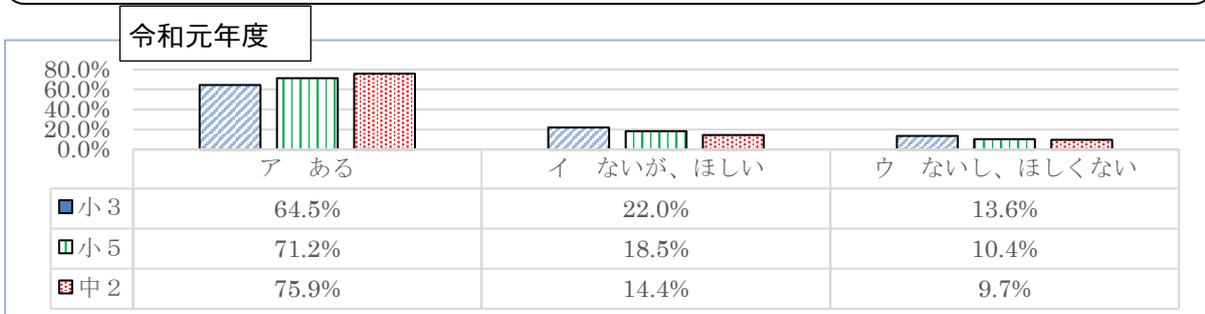
問5 あなたは、親とどんなことについて話をしますか。



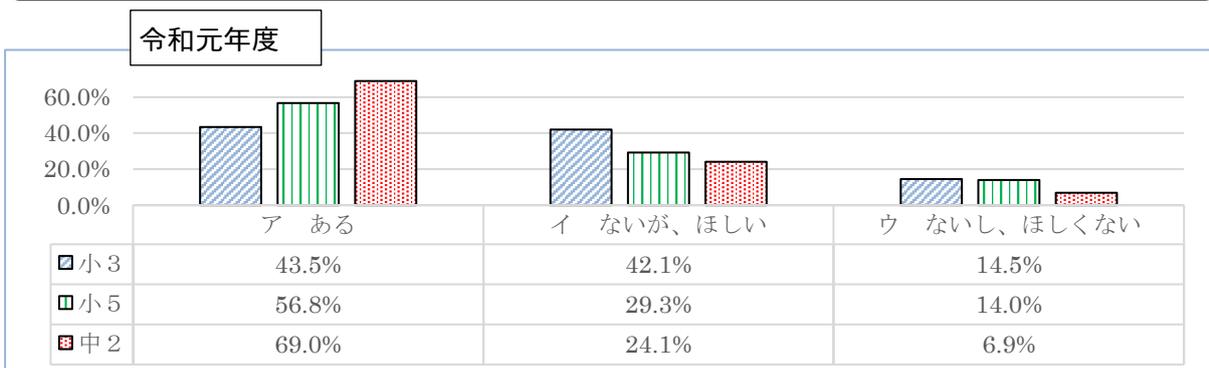
<全体>

- 「親と話さない」が小3で2.3%、小5で0.6%、中2で2.0%である。ほとんどの子どもたちが、親と話をしている。H28年の調査では質問内容が違うが、「家で一番話すのは誰ですか」に対して、「話す相手がない」と答えたのが小3で3.5%、小5で3.7%、中2で5.8%であった。親と話をする子どもたちが増加しているのではないかと考えられる。
- 話す内容は、小学校では、「学校のこと」「友だちのこと」「習い事等のこと」の順になっているが、中2では3番目に「勉強や成績のこと」が入っていて、小5、中2と学年が進むにしたがって増加している。

問6 自分が使うことができる「インターネットにつながるパソコンやタブレット」がありますか



問7 自分が使うことができる「携帯電話やスマートフォン」がありますか

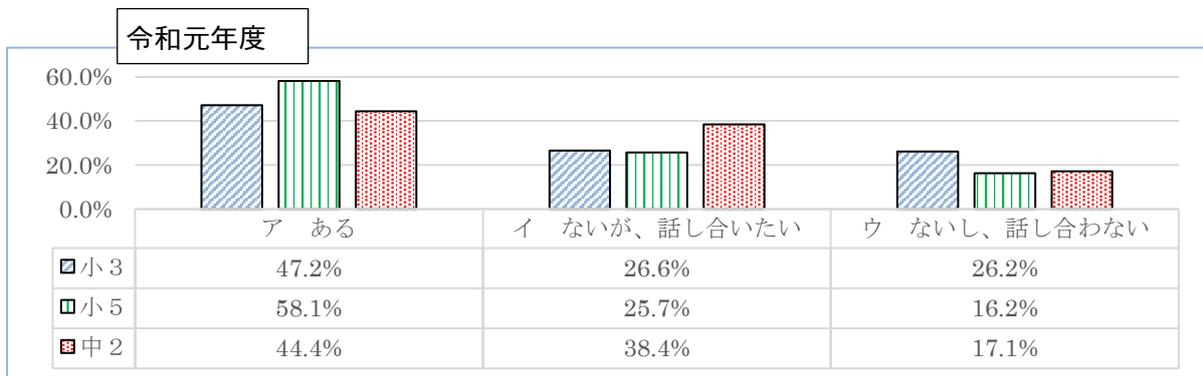


問6と問7

<全体>

- 「自分が使うことができるインターネットにつながるパソコンやタブレットがある」のは、小3で64.5%、小5で71.2%、中2で75.9%となっており、中2では4人中3人が保有している状況である。山梨県がH28年に実施した調査では、小、中、高の平均ではあるが65%であるので保有率は増加していると考えられる。
- 「自分が使えるスマートフォンや携帯電話がある」のは、小3で43.5%、小5で56.8%、中2で69%である。H26年に当センターが実施した所有についての調査では、小5で23.8%、中2で53.9%であるので、かなり保有率は増加している。小3でも半数近くになっている。背景として考えられるのは、防犯上のことや帰宅のお迎え（習い事等を含む）等でニーズが広がってきているからだと考えられる。
- 「インターネット可能な機器がある」「自分が使えるスマートフォンや携帯電話がある」など、多くの子どもたちが情報ツールを持つようになってきている。これらの状況から、「情報モラル」について低学年から発達段階を考慮しつつ、家庭と連携しながら指導・学習していく必要性を感じる。また、使用方法や内容を把握する必要がある。
- 今回の調査内容に入れてないので状況は不明であるが、以前の調査で課題であった「フィルタリング」や「使用についての取り決め」など利用についての家庭での対策は十分だろうか。家庭への呼びかけが必要である。

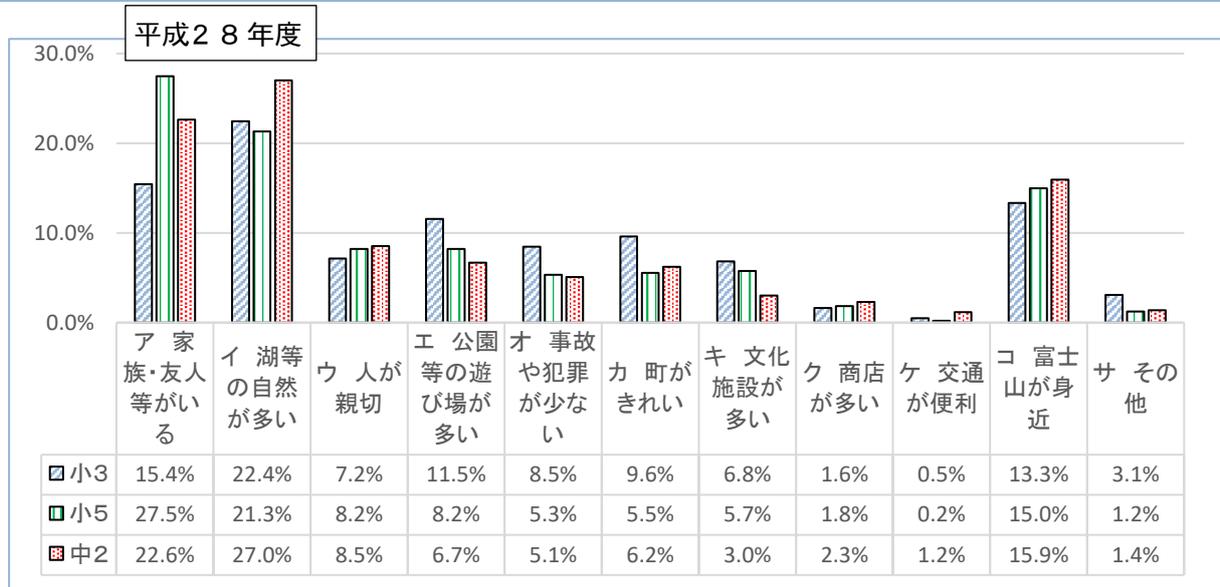
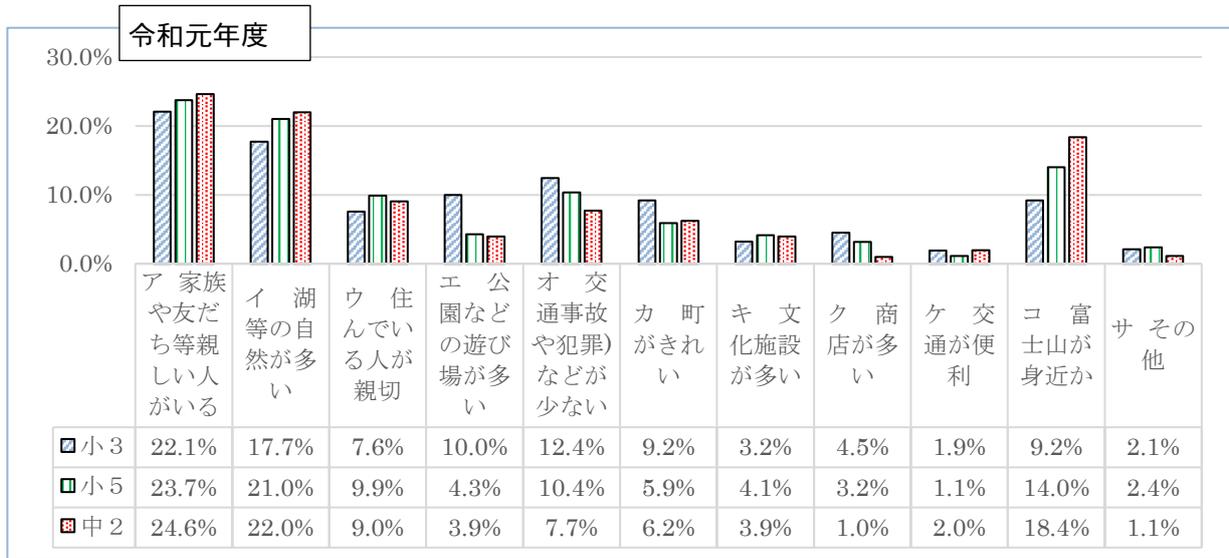
問8 あなたは、家族で大きな自然災害が起きたときのことを話し合ったことがありますか。



<全体>

- 小3でも約半数が「災害が起きたときのこと」について話し合ったことがあると答えている。小5では58.1%となっている。しかし、中2では44.4%と低い割合になっている。通常では増えていくはずであるが、減っているのはなぜだろう。「話し合い」の受け止め方が、「話をしている」レベルから「どうしたらいいか相談する」レベルまで広く考えられ、それにより小学生より中学生の方が低い割合となっていることも考えられる。
- 本地区は、近い将来発生が切迫性が指摘されている大規模地震として、南海トラフ巨大地震（東海地震）、首都直下地震などがあり、富士山の噴火の危険性も考えられる。また、地域の中で詳しく見ていくと、大雨による土砂崩れや水害が考えられる場所もある。「話をしたことがある」は約半数であり、「話し合ってみよう」と考えている子どもたちが多いので、学校の学習においては防災教育を行っているが、家庭を巻き込んだ防災教育を含めて、さらに進めていく必要がある。

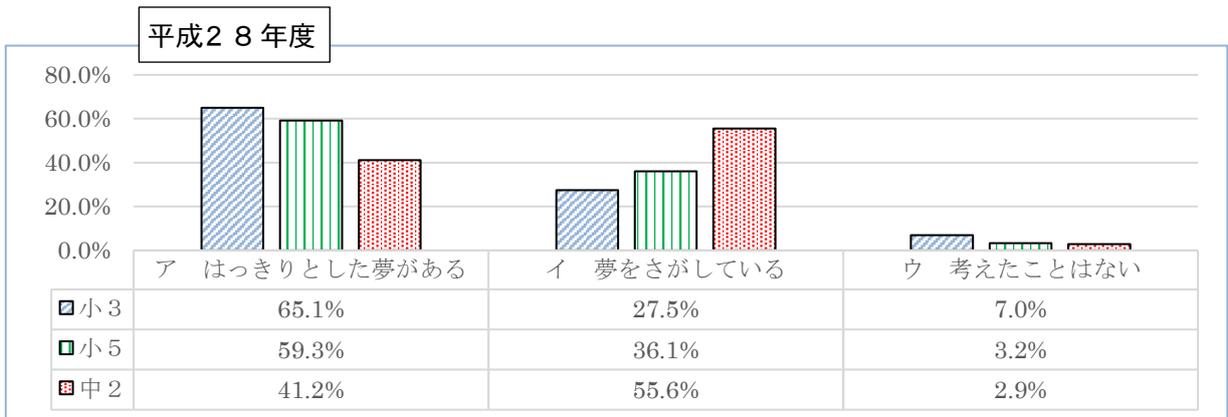
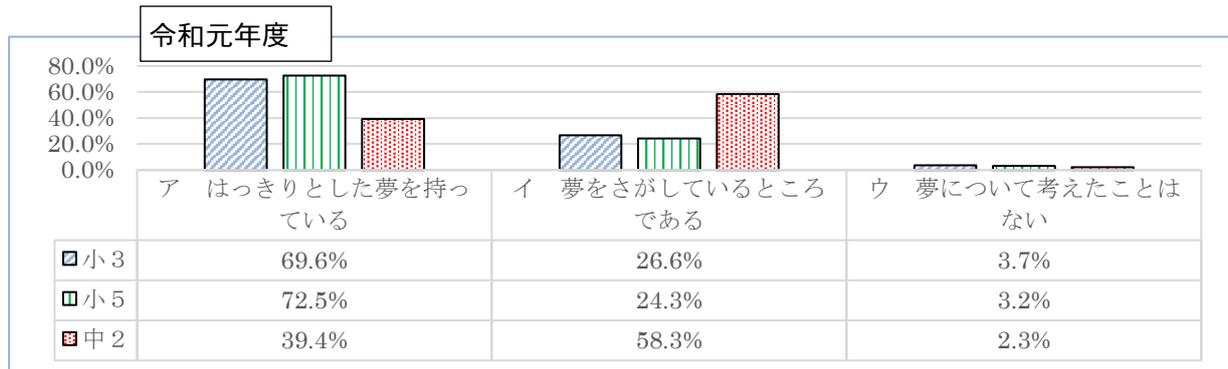
問9 あなたが住んでる町や地域で好きなところはどこですか。



<全体>

- どの学年も「家族・友人等親しい人がいる」が一番多い。(とてもうれしいことである) 2番目は、「湖等の自然が多い」、3番目は小3では「交通事故や犯罪などが少ない」であるが、小5、中2では「富士山が身近にある」である。
- H28年調査では、「好きな所はありますか」という質問があり、中2で「ない」が1割、「わからない」が2割近くあった。今回は「ない」の項目はなく、その他の項を選ぶようになっていたので比較はできないが、「その他」で「ない」はごくわずかであった。
- 「その他」には、「空気、水がきれい」「景色がきれい」「大きな災害が少ない」「あいさつをよくする」「静かで住みやすい」などがあつた。

問10 将来の夢を持っていますか。一番近いものを1つ選んでください。



<全体>

- 「はっきりとした夢がある」は、小3で69.6%、小5で72.5%と高い割合であるが、中2では39.4%と低い割合である。
- H28年と比較して、「はっきりとした夢がある」は小3では約4%、小5では約13%増加している。中2については、H28年も41.2%でほぼ同様の結果と言える。また、「考えたことはない」は、小3で減少し、小5と中2ではほぼ変化はない。
- 「夢がある」が小学生において増加したことや「考えたことがない」が減少したことは、とても良いことである。
- 中2において「夢がある」割合が低くなっているのは、受験・進学等キャリア教育を進める中で、将来をより現実的なものとして捉えるようになったためではないかと考えられるが、それも大切なステップと思える。

《全体まとめ》

- 就寝時刻、睡眠時間、食事のとり方、パソコン・タブレットやスマートフォン・携帯電話の保有などについては、低年齢化が進んでいる傾向が見られる。情報機器の保有については、学習や生活に生かすものとして非常に有効であるが、利用時間、利用の仕方等の問題が話題に挙がっているので、保有の影響について留意が必要であろう。
- 就寝時刻、睡眠時間、食事のとり方は「良いと捉えられるもの」と「悪いと捉えられるもの」の両方が増加し、二極化していく傾向が若干見られる。良い方向に変わっていくよう今回のアンケートを生かして、今後も指導していきたい。

- 睡眠時間，親と話をしている等で，良い傾向が見られるものがあるので，今後もはたらきかけをしていきたい。
- 各校ごとにその校なりの課題が見られるので，学校として課題解決に向けた取組を進めていきたい。

本センターが設置された平成17年度から，毎年教育に関するアンケート調査を実施してきました。今年度実施した「子どもの生活・意識アンケート」は質問内容に多少の変化はありますが，今回で10回目です。

続けていくことで，子ども達の経年変化を見ることができたり同年代で比較したりすることができます。子ども達の実態をつかむこと，生活や意識の一端を知ることは，保護者や教職員，地域の人々にとって，子ども達への支援・指導の方向性をさぐることです。

新たな社会，Society5.0（サイバー空間〈仮想空間〉とフィジカル空間〈現実空間〉を高度に融合されたシステムにより，経済発展と社会的課題の解決を両立する，人間中心の社会）が提唱されました。IoTやAIといった新たな技術の進展により，社会がより豊かに便利になっても，子ども達にとっての家庭・学校・地域の大切さは変わりません。本センター教育アドバイザーの菊池省三先生が講演会でよく語られる，「行きたい学校，帰りたい家庭，そして住みたい地域」であり続けたいと思います。

本調査に当たり，ご協力をいただいた各学校や児童・生徒の皆さん，また，取りまとめていただいた先生方に深く感謝申し上げます。

富士河口湖町立教育センター研究員（「アンケート調査」協力）

深沢 隆仁（船津小）	持田 泰志（小立小）	前田 志帆（大石小）
梶原 孝子（河口小）	篠原 良典（勝山小）	坂本ゆかり（西浜小）
日下 美実（大嵐小）	野口真里花（豊茂小）	三枝 綾香（湖北中）
廣瀬 祐市（勝山中）	小池としみ（湖南中）	芦沢 哲治（鳴沢小）

富士河口湖町立教育センター
 担当 小河原 徳博
 TEL 0555-83-3022
 FAX 0555-83-3024
 E-mail ed-center@kawaguchiko.ne.jp